

## 奇跡のリンゴ

1970年代、ある夫婦はりんご農家として幸せな家庭を築いていました。

そんなある日、妻が病に倒れます。原因はりんごの木に散布する農薬でした。

りんごの樹は害虫や病気の影響を受けやすいため、農薬が無ければすぐ枯れてしまいます。案の定、妻の為に農薬をやめた1年後には、りんごの樹はすべて枯れてしまいました。

りんご農家にとって、それはすなわち収入0を意味します。

出稼ぎで稼いだ僅かなお金では足りず、借金が膨らむ一方・・・。

「今まで苦勞をかけた家族に、死んでお詫びしよう・・・」

そう思い1人で山に入って行った時に、自生した1本のドングリの樹を見つけました。その樹は枯れることなく、害虫も発生していませんでした。男はその樹を夢中になって観察しました。土の柔らかさ、益虫がたくさんいたこと、周りに雑草がたくさんあったこと・・・

これにヒントを得た男は早速畑に戻り、その森の自然の状態を再現していきました。

・・・そして8年目のある日、畑を見に行くとりんごの花が咲いていたのです。

そんな苦勞の末にできたこの「奇跡のりんご」は、全国から人々が訪れ、1つ手に入れるのに4年待ちなのだそうです。

これは映画化もされた実話なのですが、いったい何が人々をこうも熱狂させるのか？

それは、このりんごに「ストーリーがあるから」です。

ストーリーがあり、感動を伴う商品ならば人は心を動かされ、どうしてもそれを手に入れたいと思うのです。

この話、塾でも同じです。どのような思いでその教室を開いたのか、どのような思いで子どもたちと接しているのか、そのストーリーがありますか？そのストーリーを親御さんに語っていますか？一度自塾のストーリーを書き出してみてくださいね。